

何人分？6人分の荷物です

● 今月の研修生（インドネシア人研修生編）

わたしたち 日本語を勉強しています

日本語の難しい点は「助詞」。文章を何度も書いては友達と話しながら覚えていきます。将来の夢は事業を起こすこと。日本の文化と日本の言葉をたくさん勉強して将来の仕事や生活に役立てたいと思います。

好きな日本語は「すみません」日本文化独特の控えめさが表れているこの言葉が好きです。



インドネシア人研修生 リザさん

● 研修生の日本語

研修生のノート「形容詞（比較表現）」の学習から

「形容詞」を勉強中のインドネシア研修生の授業を見てみましょう。今回は研修生のノートも拝見します。



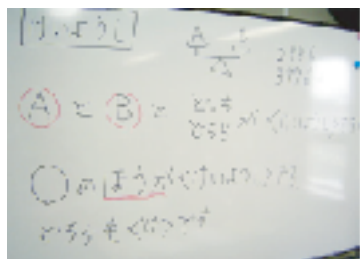
学習例

<名詞A>と<名詞B>とどちらが<形容詞>ですか……<名詞B>のほうが<形容詞>です

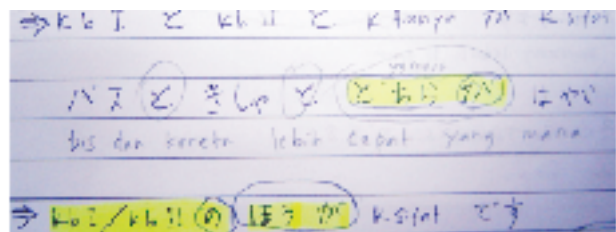
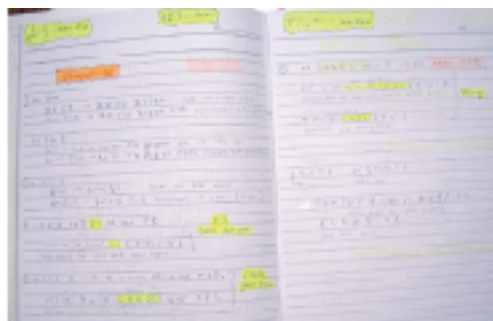
例)バスと電車とどちらが速いですか……電車のほうが速いです

Q.日本語には比較級や最上級はないの？

A.日本語には、英語の形容詞のように、比較級(例:bigger)最上級(例:biggest)というものはありません。格助詞「より」「が」と、名詞「ほう」を組み合わせることで比較表現を作ります。



→ 板書はシンプルに
文体のみ書いておきます

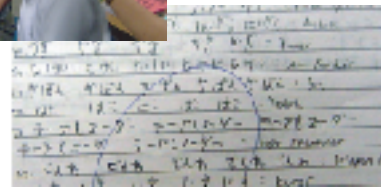


→ 語彙を組み合わせることで文章を作成する練習を繰り返します。ノートの書き方は各国の研修生様々ですが、インドネシア人研修生は蛍光ペンなどを使って鮮やかな配色でまとめています。

いつも明るくて楽しいインドネシア人研修生は、日本語の聞き取り能力が高く、講師の問いかけも反応が早い上、覚えがとていいです。漢字の学習や発音など他国の研修生と比べ、ハンディもあります。講師の日本語を積極的に聞き取り、会話練習も友達同士で行うことで日本語能力もしっかり伸びています。今回勉強した形容詞は、自身で感じたことを表現出来ることからたくさんの会話例を研修生たちで工夫して積極的に会話をしていました。



会話練習の様子
楽しそうです。



練習ノートもきれいにまとまっています。

● 研修生の食生活

前号から特集している「研修生の食生活」

今回はインドネシア人研修生の夕食をのぞいてみましょう。



ソーセージやネギなどのシンプルな具材を揃えました。



スープの出来上がりです。
お茶はお馴染み「ジャワティー」です。



本日の料理当番は
テディさんです。



炭水化物はマカロニを炒めて食します。



決め手はkecap manis
インドネシア料理には欠かせない甘口ソースです。



炒めたマカロニの上にオリジナルの目玉焼きをのせて出来上がり。



もう一品
kecap manisで煮詰めた鶏肉です。



一見少なめの夕食に見えますが、マカロニと目玉焼きで思った以上にお腹が満たされます。味はインドネシア料理特有の甘みと辛みがあり、飽きのこない味でした。
夕食の時間は意外と短く、夕方6時過ぎに調理を始めて7時には皆、食べ終わりました。

ミニコーナー



インドネシアで大流行、日本文化を感じ取る身近なサブカルチャーといえば「日本の漫画」です。
食後は日本語の勉強に加えて日本の漫画を楽しんでいるかもしれません。